

第6期諏訪湖水質保全計画のあらまし

諏訪湖は、長野県のほぼ中央に位置する県下最大の湖です。昭和40年代後半にはアオコが発生し汚濁が進んでいました。諏訪湖をきれいにするため、昭和61年に「湖沼水質保全特別措置法」による指定を受け、知事が水質保全のための事業や対策を盛り込んだ「湖沼水質保全計画」を定め、5期25年にわたり総合的に対策を進めてきました。湖沼の水質を示す代表的な項目として、COD（化学的酸素要求量）^注、窒素、りんがあり、維持されることが望ましい環境基準として定められています。諏訪湖の水質は、住民をはじめとする関係者の尽力により、りんが環境基準を下回り、CODも改善してきましたが、CODと窒素の環境基準を達成するためには、更なる取組が必要です（下図）。諏訪湖へ流入する汚濁の9割は、降雨等による市街地や農地、山林等からの流入で、これら流出水対策の推進も必要です。また一方で、水草のヒシの大量繁茂や湖底の貧酸素の拡大といった新たな課題が生じています。

このような諏訪湖を取り巻く課題を踏まえ、地域住民や関係団体、関係機関等が協働して、水質の一層の浄化及び生態系の保全に取り組むため、第6期諏訪湖水質保全計画（計画期間：平成24年度～平成28年度）が策定されました（平成25年3月）。

その中で示された長期ビジョンは次のとおりです。

諏訪湖のめざす姿（長期ビジョン）

諏訪湖の長期ビジョン（望まれる将来像）を『人と生き物が共存する諏訪湖』とし、平成39年度を目途に“豊かで清らかな湖水の確保”、“魚介類や植物など多種多様な生き物を育む生態系の確保”、“人々が集い、恵みや潤い、やすらぎを与える美しい水辺空間の創出”の3つの要素を実現することを目指し、各種対策等に取り組めます。

当所においても、ヒシの除去が行われた水域の水質浄化効果や湖底の貧酸素の改善効果の検証、及び汚濁負荷の割合の大きい上川・宮川流域の水質モニタリング調査等を関係機関と連携して取り組んでいます。

注）COD（Chemical Oxygen Demand）：有機物による湖沼などの汚濁の程度を示すもので、水中の汚濁物質を酸化剤によって酸化するときに消費される酸素の量をいう。数値が高いほど有機物の量が多く汚れが大きい。

（吉田富美雄 kanken-mizu@pref.nagano.lg.jp）

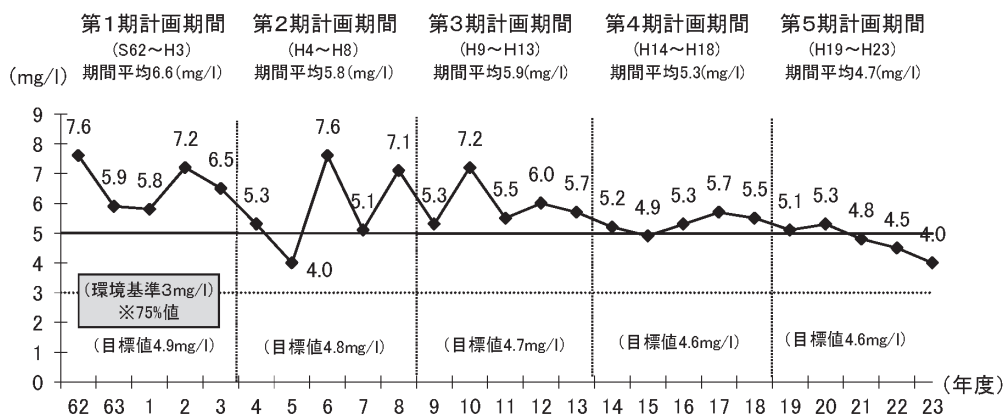


図 諏訪湖の水質の経年変化（CODの年平均値）